

青木繁「海の幸」記念館

日本近代絵画の名作

『海の幸』はココで生まれました!

明治期の日本画壇をリードした画家、青木繁。西洋画としては初めて重要文化財となった代表作『海の幸』を、彼は房州布良(今の館山市布良)で描いた。その時、滞在してお世話になったのが、現在「青木繁『海の幸』記念館」として公開されている小谷家住宅だ。

「22歳の夏、恋人と友人2人とともにやって来たのですが、途中で宿賃が底をついてしまった彼らに手を差し伸べたのが、この家の主、小谷喜録でした。マグロ漁で大いに栄えていた当時、喜録は地域のリーダーでした」(館長の小谷福哲さん)

青木は1カ月半にわたってここに逗留し、その間『海の幸』を含む実に60点の作品を描いたという。布良は画壇の聖地と呼ばれ、全国の美術関係者とともに保存基金を募り、修復工事をして記念館となった。彼が滞在した部屋は今もほぼ当時のまま。『海の幸』レプリカやブロンズなども鑑賞できる。青木繁を敬愛する「友の会」は全国から会員が400名を超え、記念館の運営を支えている。



上/『海の幸』のレプリカ。漁師たちが大魚(サメ)を担いで列をなす。一見するとリアルな描写だが、彼らが一米まどわぬ姿であることなど、画家のイマジネーションによる創作も多分に混じっているらしい。下/小谷さんは喜録の曾孫

近くの「あゆどの浜」は青木お気に入りの場所です



青木繁「海の幸」記念館

千葉県館山市布良1256

Tel: 0470-22-8271(事務局)

HP: <http://aoki-shigeru.awa.jp/>

開館日は毎週土・日曜(お盆時期・年末年始を除く)。開館時間は4~9月 10:00~16:00、10~3月 10:00~15:00。入館料(維持協力金)一般200円、小中高100円

※『海の幸』複製は、1部500円(年会費2,000円) ※平日の来館希望者は、10名以上の予約を事前に行ってください。